

Management Club Report

Nov. 2007/Vol.59

Monthly Opinion 《ブランディングへの道のり》

11月18日、名古屋で開催した「自由診療経営の確立と新たな対応」は、私ども主催のセミナーとしても大変中身の濃い充実したものとなりましたし、また他社のセミナーと比較しても勝るとも劣らない“なかなかの出来”だったのではないかと思います。

色々なセミナーに講師として呼ばれ、また著名な講師を招いては独自のセミナーを開催している吉永先生の口から

「今日のセミナーは、4人の講師が事前に打ち合わせしたわけでもないのに、お互いを補完し合うように調和の取れた良いセミナーだったと思います」

懇親会の席上でそのような旨のコメントをもらいましたが、経験豊富な吉永先生の評価は大変嬉しく感じました。四者四様に持味を発揮した内容でしたが、テーマどおり「自由診療の確立と新しい対応」についてそれなりに納得性の高い主張を伝えることができたのではないかと思います。

あうんの呼吸

「阿吽の呼吸」という言葉があります。辞書を引きますと、『阿吽』とはインドの古代語である梵語で、『阿』は口を開いて発する音で初めの『あ』、『吽』は口を閉じて発する音でお仕舞いの『うん』とあります。また「吐く息と吸う息」という意味もあるようで、対立する二つのことがらを指してもいるようですが、「阿吽の呼吸」とは「二人以上で一つのことをするとき気持ちの一致する絶妙なタイミング」となっています。

つまり、息を吸ったり吐いたりといった動作は、順序や間合いなど全く無意識のうちにこなされていますが、そのようにことさら申し合わせなどを行わずとも自然に行なえたときに「阿吽の呼吸」というのです。

言い訳的な使い方「阿吽の呼吸」

「なんで、そんなことになったのですか!」「なぜ、そのようなことをしたのですか!」そのように厳しく問い詰められたとき、正当な理由が見つからない場合「阿吽の呼吸」が言い訳のように使われる場合が多いように思います。

30年ほど前になりますか、プロ野球ドラフト制度を巡る「江川事件」に決着を付けるための『江川-小林間の電撃トレード』が成立した際、時の阪神タイガース代表は「阿吽の呼吸」によるトレードだと説明し世間を煙に巻きまし